

工高祭キャッチフレーズ

A new page of youth
新たな青春の1ページ記憶に残る言葉を
緩い気持ちで応募

提案者の谷水君(定時制建士2)



第50回工高祭キャッチフレーズが谷水翔馬君(定時制建士2)が考えた「A new page of youth」に決定した。

谷水君は「昨年も応募していたので、今年も応募してみようと思った。選ばれればいいなと緩い気持ちで応募した。日常生活の中でとっさに思いついた。全学年の記憶に残るような言葉にしたいと思い『新しい青春』というワードを使用した。自分自身も、思

い出に残るような工高祭にしたいと思う。担当は科展示で、アーチ橋を製作するのでぜひ見に来てほしい。工高祭で楽しむことは射的やサバイバルゲームなどの物を投げている系のもので楽しみ。情報技術科の科展示のバーチャルに興味があり、時間があれば行ってみたい」と話した。

最優秀賞で全国大会出場を決めた安芸さん



安芸さんは「一番は練習のときよりも仕上がりが綺麗にできなかったが、優勝できて良かった。木材に穴を開けるのが練習のときよりも早く木材に穴をあけれ、けがもなく競技に集中すること

木材加工部門では3時間以内に木材を加工し、作業をする馬(さぎょううま)を作った。

第25回ものづくりコンテスト全国大会北海道ブロック大会の木材加工部門が6月19日に釧路工業高校で行なわれ、建築科2年の安芸綺花さんが最優秀賞を受賞した。安芸さんは11月8～9日に香川県で行なわれる全国大会と来年の8月1～2日に行なわれる若年者ものづくり大会の出場権を得た。

ものづくり
コンテスト

建築科

木材加工部門

安芸さん 最優秀賞に
全国の目標は上位入賞

「全道大会では作業馬を作ることだけだったが、全国大会では図面を描くことも増えるので、練

工業化学科

化学分析部門

佐藤君と松林君が優良賞
計測値が標準値に近づく

第25回高校生ものづくりコンテスト全国大会北海道ブロック大会の化学分析部門が6月20日に札幌琴似工業高校で行なわれ、工業化学科2年の佐藤拓海君と松林寿晃君が優良賞を受賞した。

佐藤君は「優良賞を受賞で

きたことはうれしいが、最優秀賞を受賞できなかったことは悔しい。競技は3種目あり、練習では時間が足りず2種目しかできなかったが、本番では3種目できたのでうれしかった。試料を調整するとき『共洗い』を忘れたことで減

点されてしまった。会場は静かでピリピリしていた」と話した。

松林君は「初出場で緊張したが、優良賞を受賞できてうれし。来年も出場できるなら最優秀賞を狙う。練習では3種目までできていたが、本番では2種目までしかできなかった。しかし、求めた値が正解にかなり近くなったので良かった。失敗した点は、焦って実験の順番を忘れてしまったことと、ガラス器具を倒し



受賞を喜ぶ松林君(左)と佐藤君

卒業生の作品が展示

旭川駅のギャラリー

「平和通買物公園」展が7月13日までJR旭川駅内の東



安廣駿太朗君の建築作品図面

口にある中原二郎記念旭川市彫刻美術館スーションギャラリーで行なわれている。買物公園の設立から現在までの年表や写真などが展示されている。旭川の建築科の卒業生が製作した買物公園全体模型や安廣駿太朗君(R7年3月卒)と大西葉月君(R6年3月卒)の卒業設計コンペで金賞を受賞した建築模型と建築作品図面が展示されている。

入学して初めての1学期期末考査と私のクラスの工高祭の準備について語る▼1学期期末考査は4日間に渡って行なわれた。普通教科と工業情報数理、工業化学の8教科だ▼高い点数を取るために2週間前から1日1時間半から2時間ほどテスト勉強に一生懸命取り組んだ。公共と保健が苦手なので、この2つを優先的に勉強した。本番では、入学して初めての考査でいつもより緊張したので、落ち着くために深呼吸をした。考査が終わり、今回、うまくいった教科は英語だ。英語はほとんど中学校の範囲だったので比較的簡単だった。しかし、うまくいかなかった教科があったので、今後もっと難しくなる対策として3週間前から1日2時間以上勉強したい▼工高祭で私が担当するのはクラスステージだ。クラスステージは7人が三つに分かれて披露していく。一つ目と二つ目はダンスで、三つ目はヨーヨーだ。一つ目のダンスメンバーで練習したが、振り付けがうまくいなくて何度もスローモーション動画をしながら踊った。7月4日には工高祭を迎えるので、通常速度で踊れるように完璧に覚えて観客を盛り上げたい▼工高祭はたくさん思い出を作りたいと思う。一番楽しみなことは花火と科展示だ。クラスの仲の良い友達と花火をワイワイ見たり、他学科の友達と科展示を全て回ったりしたい。小中学校と違い2日間あるので楽しむつもりだ。(化1小寺)



工高タイムス

北海道旭川工業
高等学校新聞局
〒078-8804
北海道旭川市緑が丘
東4条1丁目1-1
発行人(局長)
村岡 良祐
(工業化学科3年)

旭工 ライフ 全道大会をサポート
卓球部長
織本颯太君(土2)

ラーメンが好き

卓球部は第78回北海道高等学校卓球選手権大会の当番校として運営をサポートした。内容は審判や会場の運営、設備の点検、受付などをした。卓球台とフェンスは、体育館の壁を基準に整然と設置した。また、全道大会の参加選手が安心してプレーできるように皆で支えたり、受付では

来場者にパンフレットを渡したり、忙しい大会だった。暑い中での運営だったので熱中症の対策にも気を配った。全道大会を運営するに当たって、前もって行動するため他の部員とこまめに連絡をとった。部員全員が頑張っていて、競技役員の方々からは「旭工だからできた」と言われてうれしかった。

全道大会を見て、選手たちはフィジカルや持久力が高かったため、自分たちも体力づくりをしたい。また、球の安定感とラリーを続けることを日々の練習で意識する。



工具箱

ボクシング部

荻原君 岩澤君が全国へ
体力とパンチ力の向上を

ボクシング部は6月3～6日に札幌市で行なわれた第78回北海道高等学校ボクシング選手権大会に出場した。荻原魁大君(土3)がライトウェルター級で優勝し、岩澤侍永君(土2)がピン級で優勝した。全国大会は7月27日から8月3日に岡山県で行なわれる。



全国出場を決めた荻原君(左)と岩澤君

荻原君は「決勝戦の相手は中学校のときに全国優勝した選手だったので勝てて良かった。試合で自分から攻めることができ、カウンターがよく決められた。試合の前日に熱を出してしまったので体調管理をもう少し気を付けたと思った。全国大会に向けて体力やパンチ

バレー部
バスケット部

全道ベスト8

リベンジを誓う

バレーボール競技大会に出場し、ベスト8に入った。



部長の大澤伶夢君(機3)は「準々決勝の札幌藻岩高校戦では出だしは好調で、自分たちが得意なプレーができたが、次第に相手のペースに乗せられた。チームの皆も焦りが出てきて、本来のある力を発揮できなかった。これで引退する3年生もいるが、次の大会である春高バレーに出場する3年生もいる。地区大会を突破し、全日本バレーボール高等学校選手権大会北海道予選ではベスト4を目指して頑張りたい」と話した。

チーム全力で
戦えよかった

バスケット部長 金川君



バスケットボール部は6月18～20日に札幌市で行なわれた全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会北海道予選に出場し、ベスト8に入った。

部長の金川流輝君(土3)は「目標の全道ベスト4に入れなくて悔しかったが、チームで全力で戦えたからよかった。チーム全体が一試合一試合絶対に勝つという気持ちで戦った。支部大会での課題を全道では改善できていた。初戦の札幌工業高校戦に向けての練習を特に行なった。戦術がボールを運ぶ選手のワンマンチームだとある程度分かっていたので、対応できるように一対一でのディフェンスを強化する練習をした。一番苦戦したのは駒澤大学附属苫小牧高校との試合だ。相手には留学生がいて、リバウンドなどで負けてしまった。これからウィンターカップに向けて、個人では今までよりもリバウンド、ルースボールに飛び込んでチームの攻撃回数を増やすのに貢献したい。チームではディフェンスのローテーションを早めて、相手の一対一を止めるディフェンス力を身に付けたい」と話した。

まちなかキャンパス2025

ワークショップでPR

子どもたちとふれあう

SDGsをテーマにした「まちなかキャンパス2025」が6月21～22日に旭川市平和通商公園で行なわれ、66の学校や団体が参加した。旭工から6学科がワークショップやイベントに参加し旭工の授業活動をPRした。

工業化学科は2年生2人、3年生6人が参加した。銀鏡



鏡を製作する工業化学科

反応による鏡の製作をした。

植松俊也君(3年)は「危

ない薬品もあったので注意喚起を意識した。安全第一を心掛けた貴重な体験ができて楽しい思い出になった。体験に来た子どもたちが楽しいと言ってくれたので良かった。地域の人々が少しでも化学を知ってくれたらうれしい」と話した。建築科は3年生7人が参加



木材にやすりをかける小学生 建築科

し、スマホスタンドとフォトスタンド製作の仕上げ作業のやすりがけ体験を行なった。製品に使用した木材は旭川市内の家具店で不要になったものだ。参加者と会話しながら製作した。

澤崎陽向君(3年)は「年齢の幅が大きかったので言葉遣いに注意した。子どもたちと触れ合う中で、真剣にやすりがけする姿が素晴らしいと感じた。向かいあう姿勢や子どもの純粹さを見習いたいと思った。建築に興味があった人にもこのイベントを通して興味を持ってもらえたので良い体験になった」と話した。

土木科は2年生3人、3年生6人がコンクリートのペー

パーウエイト作りを行なった。大野龍聖君(土3)は以前からボランティア活動に興味

があり参加した。「来場者に動物やキャラクターの型を選んでもらい、選んだ型にコンクリートを流しこみ15分後に完成品を渡した。子どもたちが皆楽しそうだった。来

場者は子どもたちが多いので言葉遣いや態度を柔らかくす

るのを意識した。子どもを相手にするのはとても楽しく、やりがいを感じた」と話した。

電気科はLEDを使用した万華鏡を製作した。基盤にLEDと抵抗をはんだ付けし、本体の装飾体験を行なった。

3年生5人2年生3人の計8人が担当した。



基盤にはんだ付けをする電気科

佐藤侑星君(3年)は「普段あまり関わりのない子どもたちに教えるという貴重な機会

で非常楽しかった。子どもたちに何かを教えるのは想像以上に大変で特に基礎から説明する点が難しかった。イ

ベント中、はんだごてを使用するので子どもたちが火傷しないよう使い方を教えた。参加者が主体となって製作する

ので、自主性を尊重した。また、分かりやすい説明ができるように前日にメンバーと教えあ

い練習した。途中で材料の不足があったため、次回は予備を多めに持っていくようにしたい」と話した。

情報技術科では3年生4人と2年生4人、1年生5人が課題研究で卒業生が製作したクレーンゲームや3Dアバターの作成体験を行なった。

去年もまちなかキャンパスに参加した香林秀明君(3年)は「アバター作りやクレーンゲームなどを通して、工業高校に入りたと思うしてほしい。アバター作りでは基本体をベースにして、様々なパーツをつけて、創作した。クレーンゲームは景品にお菓子をプレゼントした。今回も子どもたちが多かったのが嬉しめるように笑顔で心掛けた」と話した。

電子機械科は3年生6人で参加した。3Dプリンターで猫やペンギンなどの動物をデ

ザインした子ども向けのキーホルダーを作成し、来場者に配布した。

中條莞太君(3年)は「参加する前は来場者があまり多くないと思っていたが、思っていたより多くて驚いた。で

きるだけたくさんの人にキーホルダーを配れるように声をかけを頑張った」と話した。